

田島準子



山口市
(1903～2002)

田島準子は、山口市大内御堀出身の小説家、児童文学作家である。『文藝春秋』『婦人公論』などの懸賞小説に投稿を繰り返していたが、昭和十五年一月、東京朝日新聞社が公募した創立五十周年記念懸賞小説に、長篇小説「青雲」が佳作入選し、単行本『青雲』を刊行する。戦後は、年少者向け読み物の世界に進み、数多くの翻訳に携わった。こうした田島準子の執筆活動は、大正末期から昭和期の終わりまで、実に半世紀以上に亘る息の長いものだった。この書き続ける女性作家の姿勢は、なお、光があてられてゆくべきものである。

(加藤禎行)

【主な著作】

『青雲』(六藝社、昭和15年)

『新しき岸』(新元社、昭和17年)

『風雪の道』(芳流文庫、昭和55年)